

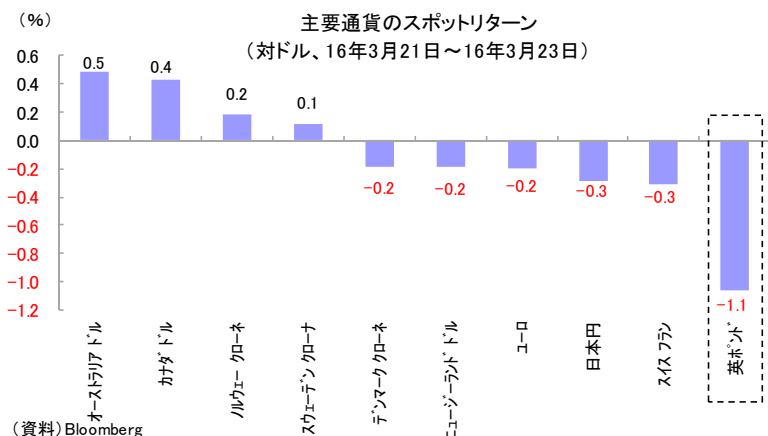
みずほマーケット・トピック(2016 年 3 月 23 日)

ブリュッセルテロを受けて～目立つ英ポンドの動揺～

ブリュッセルで発生した空港・地下鉄同時爆破テロを受けた市場の反応は比較的穏当なものに止まっている。だが、今回のテロを経て、元より 4～6 月期の主役になると思われる英国の EU 離脱 (Brexit) 問題への懸念が強まることは間違いなく、昨日の相場を見てもユーロよりも英ポンドの動揺が大きい。昨年のパリ、今年のブリュッセルに続いて、投票日までに再び類似の事案が起きれば EU 離脱への支持が増えるだろう。為替市場の観点からはポンド安とこれに連れたユーロ安が想定され、その裏側ではドル高が起きることになる。だが、その際のドル高と円高のどちらかが強いのかは今のところ「時間帯による」程度の印象しかない。いずれにせよ、昨年のギリシャ同様、春先から夏場にかけての相場の主役は欧州となる公算が大きい。EU においては理想の追求よりも現実の瓦解が回避される局面と見られ、シェンゲン協定の一時全面停止なども有り得るか。

～ブリュッセルテロ、金融市場の反応は今のところ穏当～

昨日の為替市場はブリュッセルで発生した空港・地下鉄同時爆破テロを受けて円やスイスフランが逃避的に買われ、円は対ドルで一時 111.38 円をつける動きが見られている。とはいえ、そうした動きが持続しているわけではなく、本日東京時間午前には 112 円台に値を戻しており、当のユーロ相場も小動きに止まっている。欧州を巡る環境は極めて不安定で



あるものの、今のところ、金融市場の反応は穏当なものと言えそうである。だが、後述するように、今回のテロを経て、元より 4～6 月期の主役となるとと思われる英国の EU 離脱 (Brexit) 問題への懸念が強まることは間違いない。昨日の相場を見てもユーロよりも英ポンドの動揺が大きい(図)。

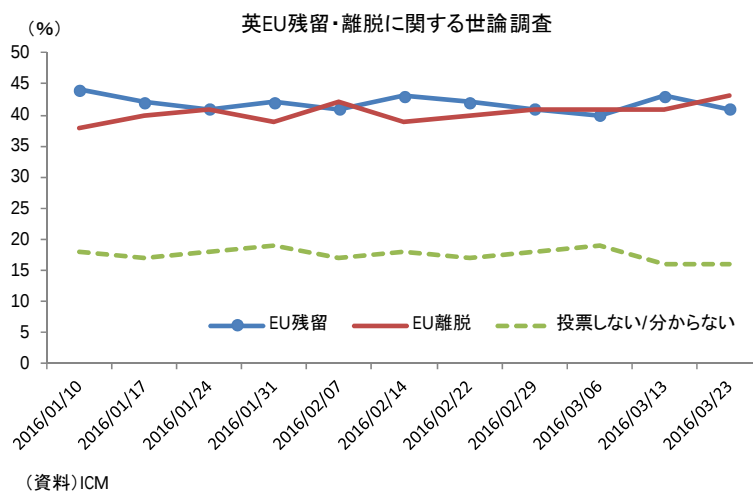
～EU への攻撃意図は明らか～

昨年に引き続きユーロ相場は経済・金融情勢以外の部分できな臭い材料が多い。難民問題は昨年 8～9 月に表面化してから全く改善しておらず、先陣切って受け入れたドイツの姿勢が後退するなどむしろ悪化している。そこへ EU の首都ブリュッセルにおける同時多発テロである。テロのあったマルベーク駅は EU 本部のあるシューマン駅から徒歩数分のエリアである。EU 本部と言えば、テレビなどに映し出される星型の建造物(通称:バレルモン)が有名だが、EU の関係機関はバレルモン全てに收容されているわけではない。本部に入りきらなかった機能はマルベーク駅周辺の雑居ビ

ルに間借りしているセクションもある(その他、郊外に散っている機能もある¹⁾)。それゆえ、今回のテロが EU の要所攻撃を意識したものである可能性は非常に高いと言えるだろう。元より混迷の度を深める難民問題は一段と扱いが難しくなり、加盟国毎の受け入れ義務枠などはとても話し合えそうにない。それどころかシェンゲン協定の一時停止、つまりは各国におけるパスポートコントロールが復活する展開なども予想されるだろう。テロに屈するののかという批判は想定されるが、今は理想の追求ではなく現実の瓦解を防ぐという選択肢が採られる可能性が否めない。

～俄かに現実味を帯びる Brexit への不安～

今のところ、為替を含め、金融市場の反応は落ち着いている。しかし、冒頭述べたように、4～6 月期に相場のドライバーになると思われていた Brexit の意思決定が俄かに現実味を帯び始めたことは間違いない。こうしたテロが欧州で起きる度に英国世論では離脱派に傾斜する向きが多くなる可能性がある。昨日、英ポンドが売られたのはこうした思惑が強まった上に、ブリュッセルテロ以前に行われた世論調査(図、2000 人を対象とし、3 月 18～20 日に ICM が実施)も発表され、ここで EU 離脱支持派が残留支持派を上回るという結果になっていたことも材料視されたと思われる。



国民投票は「国民の総意を直接汲み取れる」という大義がある一方、その時点の瞬間風速に左右されるという難点がある。EU から離脱するという重大な決断もその例外ではなく、去年のパリ、今年のブリュッセルに続いて、投票日まで再び欧州大都市で類似の事案が起れば EU 離脱への支持が増えるのは想像に難くない。テロを起こす側からしても、西側世界の分裂・混乱が望むところだとすれば、そのような展開は尚のこと、警戒せざるを得ないだろう。

為替市場の観点から言えることはポンド安とこれに連れたユーロ安であり、その裏側ではドル高が起きることになる。しかし、その際のドル高と円高のどちらかが強いのかは今のところ「時間帯による」程度の印象しかなく、確たることは述べるのが難しい。いずれにせよ、去年のギリシャ同様、春先から夏場にかけての相場の主役は欧州となる公算が大きくなってきたと言える。

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔 (TEL: 03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

¹ なお、筆者が一時在籍していた経済予測などを司る経済・金融総局はやや郊外(デュメイ駅)に専用建物があるので今回の事件からは地理的に遠い。一方、筆者が当時所属していた JETRO(日本貿易振興機構)のブリュッセルオフィスなどはマルベーク駅にあり、昨年には在ベルギー日本国大使館も同駅に移転している。そのほか、EU 本部近くには EU 首脳会議や EU 閣僚理事会を開催する建物の他、欧州議会も徒歩圏内にある。いずれにせよ現場は EU の要所に違いない。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhoobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2016年3月22日	ユーロ圏経常黒字とユーロ相場の近況について
2016年3月18日	週末版(過去2か月のG3通貨相場から言えること～基軸通貨には逆らえず～)
2016年3月17日	FOMCを終えて～やはり「2回出来れば御の字」の米利上げ～
2016年3月16日	日銀金融政策決定会合について～際立つECBとの対比～
2016年3月15日	TLTRO2Iに関するQ&A～悔れない、その実力～
2016年3月14日	求められる、市場期待に対して「No」と言う勇氣
2016年3月11日	週末版(ECB理事会を終えて～悔やまれる満点回答～)
2016年3月10日	日銀会合プレビュー～「Mr.Kurodaは気にしない」のか?～
2016年3月4日	週末版
2016年3月3日	今年が「円高の年」なら、まだ底は深い～過去30年の経験則～
2016年3月2日	ECB理事会プレビュー～注目すべき論点の整理～
2016年3月1日	上海G20、為替見通しへのインパクトについて
2016年2月26日	週末版(筋が通らない日中に対する通貨安批判～まずはFRBの政策修正が筋～)
2016年2月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年1月分)
2016年2月24日	英国のEU離脱に係る論点整理
2016年2月22日	中国版ブラザ合意へ燃る期待について
2016年2月19日	週末版(ECB理事会議事要旨(1月21日開催分)を受けて～「保険」≡「混乱の種」という皮肉～)
2016年2月16日	マイナス金利で円高は「不幸中の幸い」?
2016年2月12日	週末版(やはり始まった購買力平価への回帰～最終的に報われる為替予測とは～)
2016年2月10日	弱まる「期待への働きかけ」と為替相場の関係
2016年2月9日	円の需給環境の総括と展望～15年国際収支を受けて～
2016年2月8日	米1月雇用統計を受けて～成熟化への不安～
2016年2月5日	週末版(マイナス金利決定から1週間を終えて～早くも心配される「本当のマイナス金利」～)
2016年2月4日	「終わりの始まり」が近づくFRBの正常化プロセス
2016年2月3日	円安ドライバーとしては役不足な日銀マイナス金利
2016年2月2日	日銀の追加緩和が可能だった理由
2016年2月1日	日銀マイナス金利政策導入を受けて～逐次投入体制へ～
2016年1月29日	週末版
2016年1月28日	FOMC(1月26～27日開催分)を受けて
2016年1月27日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年12月分)
2016年1月26日	ドラギ総裁講演について～崩れるインフレ期待の「壁」～
2016年1月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～静観する勇氣～
2016年1月22日	週末版(ECB理事会を終えて～2連敗は避けられるか?～)
2016年1月21日	円相場の調整余地を探る～試される日銀～
2016年1月20日	ユーロ相場を巡る最近の証券投資フローについて
2016年1月19日	ECB理事会プレビュー～ECB版の補完措置へ向けて～
2016年1月18日	「あく抜け」に求められるもの～人民元の完全フロート化～
2016年1月15日	週末版(ECB理事会議事要旨について～ドラギマジック、「初の黒星」の舞台裏～)
2016年1月14日	厳しくなってきたFRBの「痩せ我慢」
2016年1月13日	本邦11月国際収支統計と円相場の需給について
2016年1月12日	Game changer! になれなかった米12月雇用統計
2016年1月8日	週末版(中国外貨準備減少の正しい読み方～トリレンマの「総取り」はいつまでも出来ない～)
2016年1月7日	FOMC議事要旨～「ハト派なタカ派」を再確認～
2016年1月5日	119円台前半の意味～想定為替レートとの対比～
2016年1月4日	2016年の為替見通しポイント～過去2年との違い～
2015年12月28日	2015年の為替相場総括～為替従属強まる日米欧中銀～
2015年12月25日	週末版(【暫定版】中期為替相場見通し～ユーロ相場～)
2015年12月24日	【暫定版】中期為替相場見通し～ドル/円相場～
2015年12月22日	完全雇用の背後にあるもの～景気と雇用のズレ～
2015年12月21日	日銀金融政策決定会合～QQE2.5の読み方～
2015年12月18日	週末版
2015年12月17日	FOMCを終えて～ドル/円見通しに影響なし～
2015年12月16日	日米金利差から見る現状のドル/円相場
2015年12月14日	日銀短観12月調査～後がない想定為替レート～
2015年12月11日	週末版(ECBのバランスシート拡大について～「2016年6月」に向けての進捗状況～原油価格下落のG3通貨への含意)
2015年12月9日	原油価格下落のG3通貨への含意
2015年12月8日	本邦10月国際収支統計と円相場の需給について
2015年12月7日	ECBはどうしたら踏み込むのか? 今後のユーロ相場は?
2015年12月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「故意的な失望」は軽ばぬ先の杖か～)
2015年12月3日	イエレン講演と限界に迫るドル買い相場
2015年12月2日	実質実効為替相場(REER)で見る、ドル相場・円相場
2015年12月1日	ECB理事会プレビューの補足～超日銀化現象～
2015年11月27日	週末版
2015年11月26日	追加緩和後のユーロ相場～また、「下落の時代」?～
2015年11月25日	ECB理事会プレビュー(12月3日開催分)～3つの緩和メニュー～
2015年11月24日	ECB理事会議事要旨～「未知の領域」への不安も～
2015年11月20日	週末版
2015年11月17日	本邦7～9月期GDPを受けて～最近のULC動向～
2015年11月16日	仏同時多発テロを受けて～政治統合か、瓦解か～
2015年11月13日	週末版(ドル調達コストの急騰について～「割に合わない」ムードが強まる対外証券投資～)
2015年11月12日	12月ECB緩和を阻むもの～戻ってしまったインフレ期待～
2015年11月11日	米輸入物価下落が示す「不況の輸入」
2015年11月10日	本邦9月国際収支統計と円相場の需給について
2015年11月9日	米10月雇用統計を受けて～問題は「何回できるか」～
2015年11月6日	週末版(ECBの「次の一手」を考える～預金ファシリティ金利のマイナス幅はどこまでいくのか～)
2015年11月4日	3度目の正直に挑む、ドル/円相場の年間値幅
2015年11月2日	日銀金融政策決定会合を終えて～幻滅リスク回避も・・・～
2015年10月30日	週末版
2015年10月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年9月分)
2015年10月28日	FOMC声明文のプレビュー～注目すべき3点～
2015年10月27日	振り出しに戻った投機筋の円売り～2つの理由～
2015年10月26日	ECB緩和予告は日銀を追い詰めたと言えるのか?
2015年10月23日	週末版(ECB理事会を終えて～止まりそうにない金融政策の通貨政策化～)
2015年10月21日	米為替政策報告書について～我慢の限界は近い?～
2015年10月20日	日銀金融政策決定会合プレビュー(10月30日開催分)
2015年10月19日	ECB理事会プレビュー(10月22日開催分)
2015年10月16日	週末版(ユーロ相場の乱高下を受けて～迫るHICPのマイナス常態化と追加緩和～)
2015年10月15日	米利上げを再検討すべき時期に
2015年10月14日	ドイツ経済に見られ始めた失速の兆候
2015年10月13日	正当性を増すブレイナードFRB理事のスタンス
2015年10月9日	週末版(ECB理事会議事要旨(9月2～3日開催分)～崩れるインフレ期待?～)
2015年10月8日	本邦8月国際収支統計と円相場の需給について